

週末興行成績

(6月27~29日)

- ①①国宝
  - ②—F1/エフワン
  - ③②リロ&スティッチ
  - ④④ドールハウス
  - ⑤—でっちあげ 殺人教師と呼ばれた男
  - ⑥③フロントライン
  - ⑦⑤ミッション・インポッシブル/ファイナル・レコニング
  - ⑧—それいけ!アンパンマン チャボンのヒーロー!
  - ⑨—小林さんちのメイドラゴン さみしがりの竜
  - ⑩—LUPIN THE ⅢRD THE MOVIE 不死身の血族
- (右の数字は前週順位。興行通信社調べ)

チャートの裏側

ハリウッドの底力

ハリウッド映画の真骨頂、ここにあり。「F1/エフワン」だ。かつて、自動車レースで世界に名をはせた男が、三十数年ぶりにF1レースに参戦する。男はブラッド・ピットが演じる。3日間の興行収入約4億2000万円。大ヒットである。F1とブラピの組み合わせが見事に花開いた。

60歳を超える実年齢にふさわしく、周りからは年寄り扱いされる役柄だ。ところが、筋肉隆々、群を抜く操縦技術、走りのむちゃぶりなど、年を重ねた男の単純な復活劇にはならない。そのように作品が作られていない。F1に臨んでも、長年やってきたことをやっているだけだ。

レースのシーンが圧倒的な見せ場となる作品だが、男の際立つ個性が中心点からブレることはない。あまりに破天荒過ぎて、周りとはぶつかることもあるが、あくどい独断ぶりにはならない。経験と知力に裏打ちされた生き方そのものだからだ。恋愛模様も堂に入っている。

主人公同様に、ブラピが準備万端整え、日常生活における徹



時代の目

純粹さが照射する怒り

▶「桐島です」

連続企業爆破事件で指名手配され、49年間の逃亡の末、病死直前に本名を名乗った「東アジア反日武装戦線」メンバー、桐島聡の人生を映画化。周辺の人物らを入念にリサーチした脚本の梶原阿貴、単なる社会派ではなく一人の人間の軌跡を浮き立たせ、青春映画に仕立てた高橋伴明監督の力作だ。1970年代、大学生の桐島(毎熊克哉)は反日武装戦線の活動に共鳴し行動するが、犠牲者が出たことで深い葛藤にさいなまれる。組織は警察により壊滅状態になり、桐島は偽名で住み込みの職を得る。規則正しい静かな生活の中



で歌手キーナ(北香那)と出会う。桐島をごく普通の若者として捉え、外国人労働者ら弱い立場の人に寄り添う人物として活写。政治家や企業の横暴、偏見や差別に怒りをあらわにするのも人への優しさからで、目指すべき社会に変革できなかった自身への責任を痛感していた。桐島の純粹さが照射するのは、現代日本が抱える矛盾への痛烈な怒りそのものだ。相思相愛となるキーナが歌う「時代おくれ」の歌詞が桐島の心情と重なり激しく心を揺さぶられる。ラストの浅川マキの歌と高橋恵子の表情が心にしみた。桐島が憑依したような毎熊、生の輝きを発した北ら俳優陣も称賛したい。1時間45分。東京・新宿武蔵野館、大阪・なんばパークスシネマほか。(鈴)



を引くのである。1時間41分。東京・TOH Oシネマズ日比谷、大阪・TOH Oシネマズ梅田ほか。(勝) 競演も見応えがあり、とりわけ未熟と成熟の間を行き来しているような高石の芝居にひきつけられた。(細)

愛されなくても



母親の含め、3のめり込 画化。武 使い込ん び出して 母からは 父から性 する同級 は父が殺 母からは 母からは 母からは